

2013 年度 SGEPPSS 若手会、夏の学校の報告

報告者：佐伯僚介

日時：2013 年 9 月 2 日～4 日

9 月に行われた SGEPPSS 若手会夏の学校について報告します。

夏の学校というのは、日本各地の SGEPPSS(地球電磁気・地球惑星圏学会)に参加する大学の学生がメインとなって、毎年持ち回りで主催をして若手研究者の発表、交流の場を持つためのイベントです。

今年は東京大学及び宇宙科学研究所が主催だったので、神奈川の民宿を貸しきっての開催となり、我々も名古屋からゲリラ豪雨を越えて参加しました。

夏の学校をどんな所でするのか民宿の写真などを載せられればよかったのですが、肖像権の関係で載せられない写真が多かったのでここにはお見せできません。雰囲気だけお届けします。

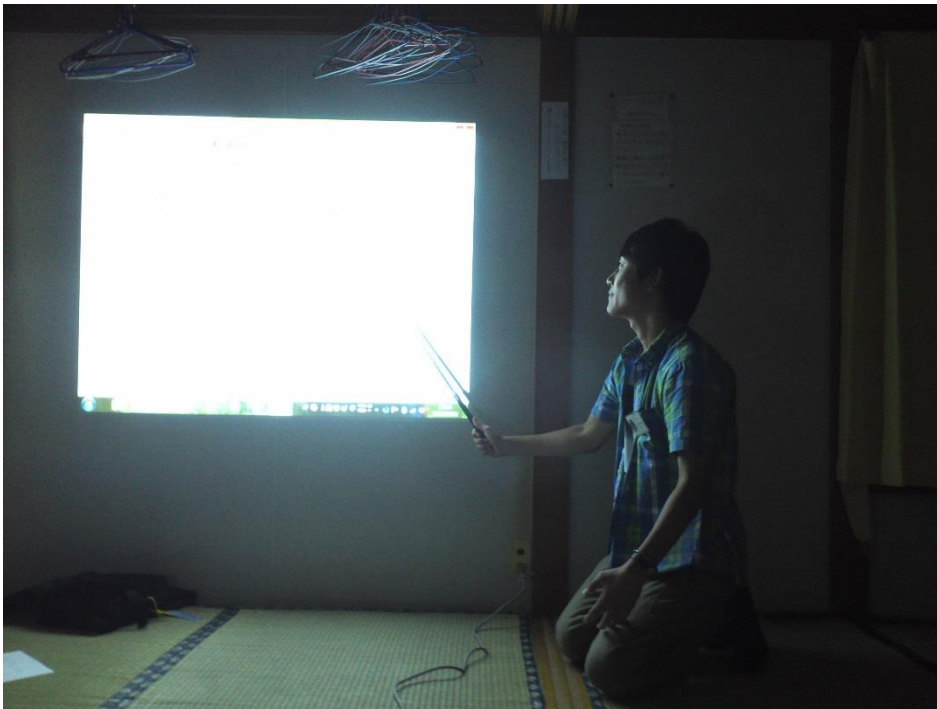
70 人ほど参加した今年の夏の学校、テーマは『プレゼン力』ということで、実はかなり発表方法や講演内容の焦点を絞ったものになっていました。

初日の招待講演では、東京大学海洋アライアンス特任研究員の保坂直紀先生に「科学を伝えるということ」というタイトルで講演をしていただきました。文系と理系の間をつなぐ説明をときに生じる齟齬、専門外の人に伝えるときに心がける、不正確けどわかりやすい表現など、これから若手の人々がぶつかるであろう問題についてお聞きしました。

また、三日目には東京大学新領域創生科学研究所教授の杉田精司先生に「次世代惑星探査には何が求められているのか？」というタイトルで講演していただきました。惑星探査の現状と先行きを、精通した専門家からお聞きできたのは貴重な体験でした。NASA の大型探査機による火星探査計画と、その先に若手が食い込めるチャンスがあることは、若手研究者の大きなモチベーションになりました。

SGEPPSS 夏の学校では一人が二回発表しました。『プレゼン力』がテーマの今回は、少ない枚数のスライドで全く違う分野の方々にわかるように伝える、という普段とは一味違う発表形式でした。

小グループをつくり、近い距離で細かく質問を受けながら発表していきます。



本当に全く違う分野の発表を聞くため、同じ SGEPPSS であっても初めて聞く内容が多かったです。そんな角度からアプローチするのか、と驚くことが何度もあり、知見が広がりました。

僕は正直、内容を詰め込みすぎて伝えきれたか不安が残る結果となりました。随分とごちゃごちゃしたスライドと説明になってしまったと後になって思う次第です。

自己紹介もするように、と言われていたので、各自自己紹介用のスライドも作っていたのですが、ユーモアって大事だな、と思いました。その場に合った適度な笑いを取れるのもスキルだと、同年代の方と比べて感じました。

余談ですが、初日の午後 5 時は東北大学の大学院入試の合格発表でした。僕の発表グループにはまさにその受験した学部 4 年生がいたので、その方のいろいろな意味で緊張の隠せない発表の後、その場のみんなで合格を確認し、お祝いしました。いい笑顔を見られました。

そんな和気藹々とした雰囲気ですんでいきます。

夜は懇親会をしました。これから同じ分野として学会や研究会で顔を合わせる人同士、さらには将来の研究者として大事な横のつながりを作る場としてもこの夏の学校はいいきっかけです。春に幕張で行われる JpGU という地球惑星科学連合大会で知り合った人と再会したり、貴重な鳥取出身の方と地元トーク

をしたりと、楽しい時間を過ごしました。



初日と二日目の学生発表、初日と三日目の招待講演の他に、SGEPSS 夏の学校にはレクリエーションというものもあります。東京大学さんのはからいによって初めてペットボトルロケットというものを作りました。設定によって百メートルくらい飛ぶので、飛ばすときはお気をつけください。



最後に、来年度の幹事校は我々名古屋大学 STE 研ということで、閉校式で引き継がれました。僕たち 4 部門も来年は運営に関わっていきます。

ということで二部門の皆さんと共に来年がんばっていきましょう。



以上、佐伯からの報告でした。